

著作権管理のための 匿名経路制御

木下研究室 200402898 遠山 真一郎

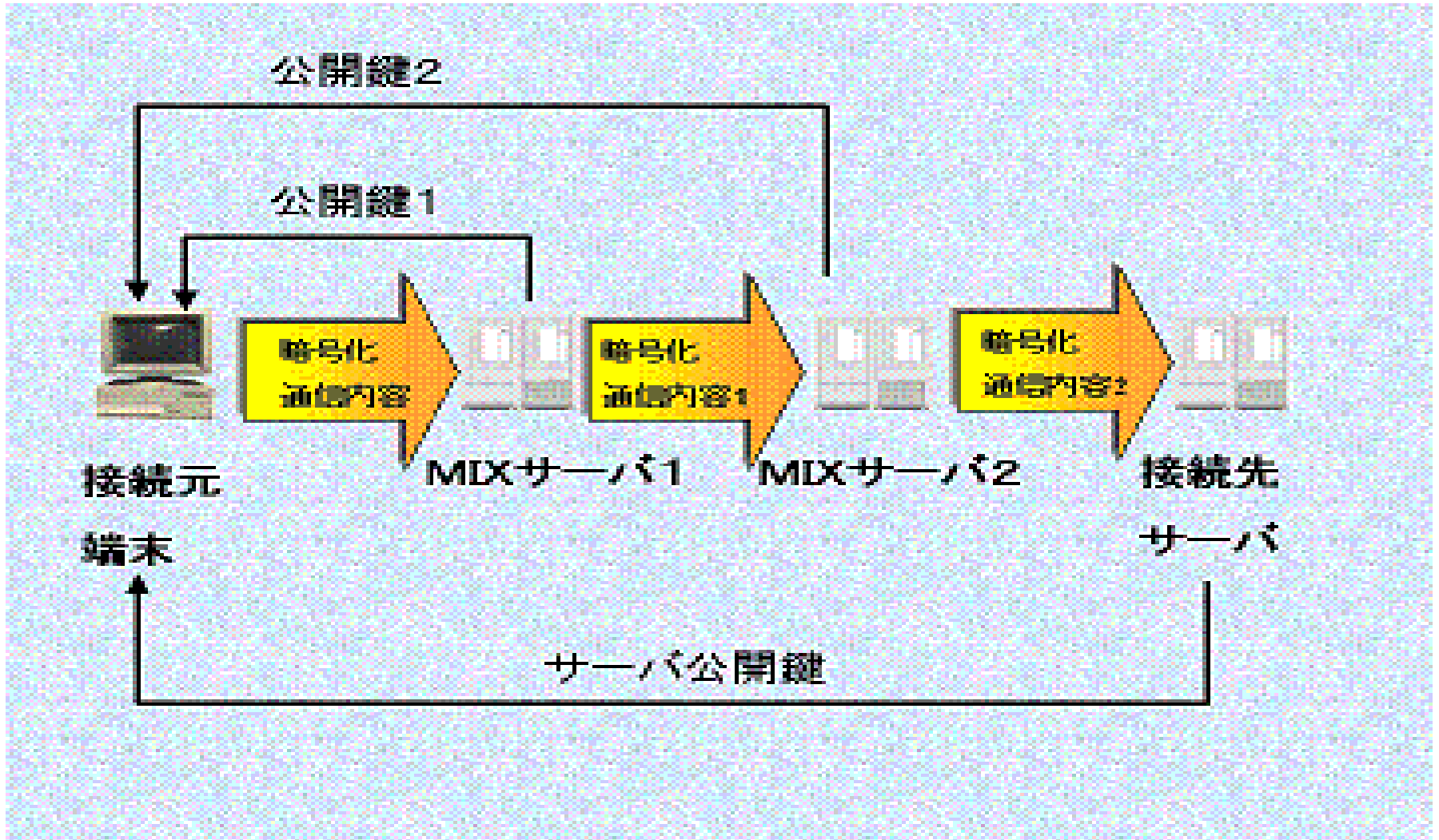
背景

- デジタルコンテンツの著作権を保護するためDRM(Digital Rights Mnagement)が導入されている。
- 使用目的の変更や二次利用の著作権調停を自律的に行うために、コンテンツのカプセル化とモバイルエージェントが利用されている。
- エージェント間で通信を行う際に、
流通後のコンテンツの位置の把握する際に
利用者などのプライバシーを保護する必要

目的

- プライバシーを保護しつつ、流通後のコンテンツのエージェントと権利者のエージェントが通信可能な、匿名経路制御システムを提案する。

Mix-net

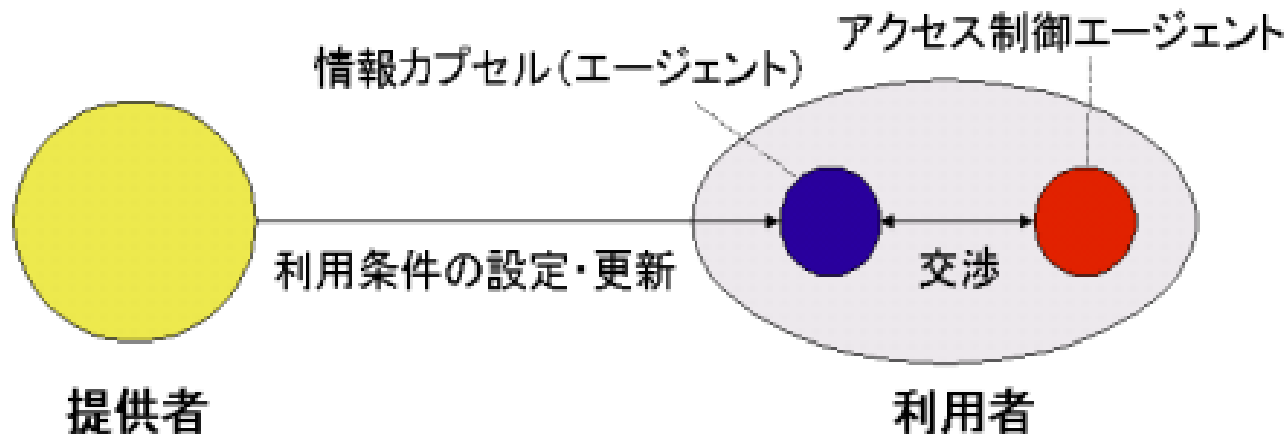


DRMシステム(デジタル著作権管理)の必要条件

- 1・著作権の所有者は処理情報の条件を設定可能
- 2・分配された情報の完全性は保証されなければならない
- 3・所有者は使用者側での著作権の使用方法の妥当性をチェック可能
- 4・所有者は情報を使用するための条件を変更することが可能
- 5・所有者は分配された情報を最新のものにすることが可能

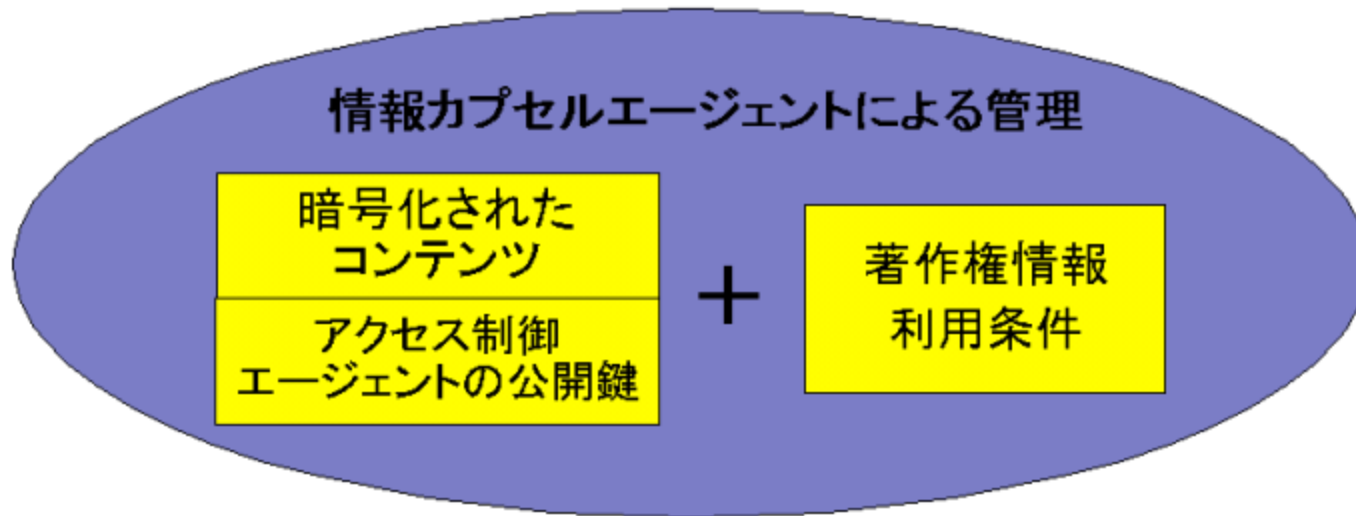
エージェントベースのDRM

- ・情報カプセルエージェント コンテンツを提供する権利を持つ
- ・アクセス制御エージェント コンテンツを取得する権利を持つ



情報カプセルの内容

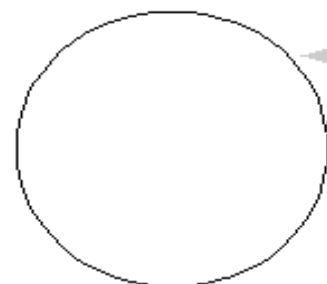
(情報カプセル)



カプセル化コンテンツはコンテンツ管理者のサーバ、P2Pネットワークなどを介し、自由に流通している

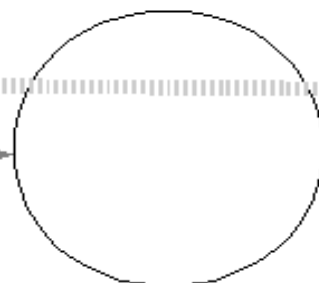
ネットワーク（一次利用の場合）

Distributor 1
(Original information)

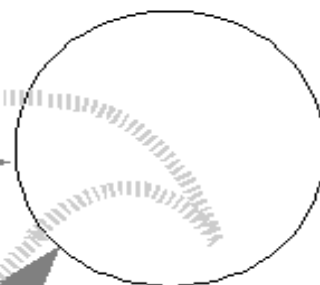


Original contents 1

Router



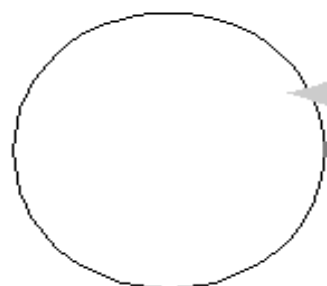
User 1



User

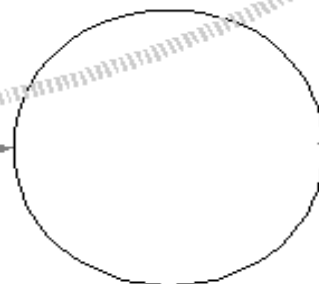
Original contents 1

Distributor 2
(Original information)



Original contents 2

Router



Original contents 2



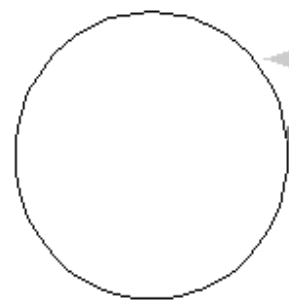
Initial and Uplink Routing



Downlink Routing

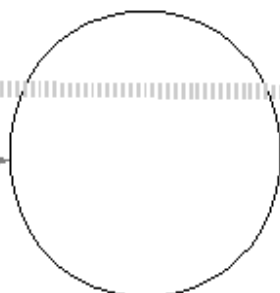
二次配布

Distributor 1
(Original information)



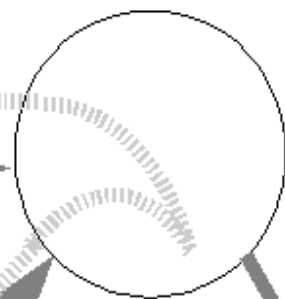
Original contents 1

Router



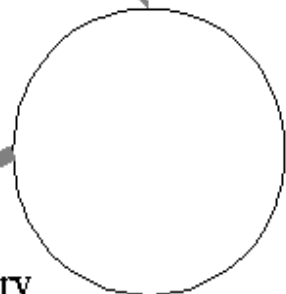
Original contents 1

User 1

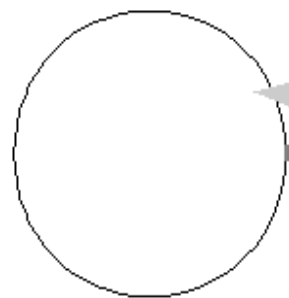


Distributor 3
(Second use)

Secondary contents

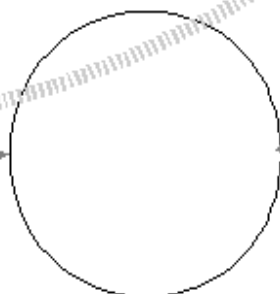


Distributor 2
(Original information)



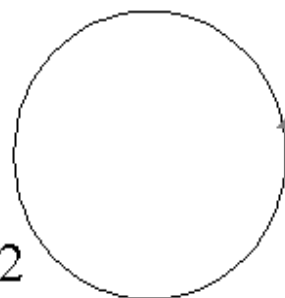
Original contents 2

Router



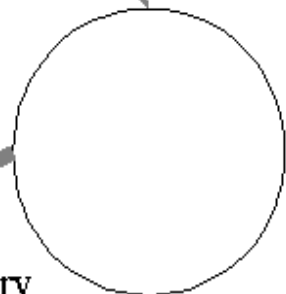
Original contents 2


User 2




Secondary contents

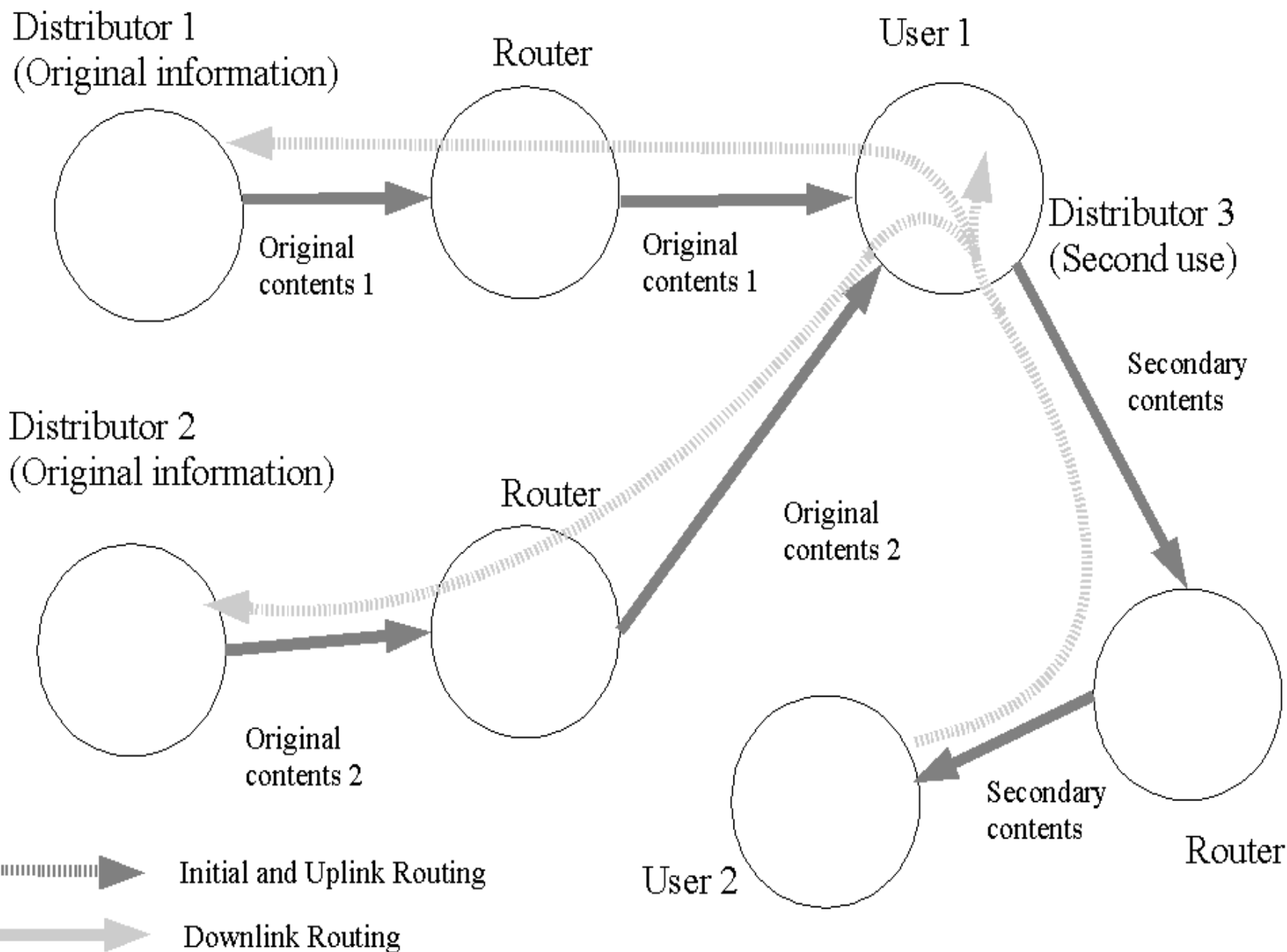
Router



 Initial and Uplink Routing

 Downlink Routing

提案のネットワーク



今後の課題

今後は匿名経路制御システムの実装について検討していきたい